

黒住教 お日の出を拝み、感謝と感動の心で誠を尽くす ふるさと・イキイキ・だより

発行：黒住教本部 岡山市北区尾上神道山 TEL:086-284-2121 FAX:086-284-4756 http://www.kurozumikyo.com/



舞楽宝田を披露

神道山からのお知らせ(平成二十二年一月～六月)

- *黒住教本部の主な行事***
 - 一月一日(金)午前零時 歳旦祭
 - ・新年最初の御神前行事です。
 - 午前六時五十分 日拝式(初日の出)
 - 一月十日(日)午前十時 道づれ新春開運祈願祭
 - ・全国(お道)づれが初詣にお参りされます。
 - 一月十八日(月)教主様伊勢神宮内宮ご参拝(午前八時三十分内宮宇治橋集合)
 - ・毎年恒例の教主様伊勢神宮初詣です。お道づれの方々も、この日に併せて伊勢参宮を計画されます。
 - 三月十一日(日)午前十時三十分 春季祖霊祭
 - 四月三日(土)午後五時 春季大祭
 - 四月四日(日)復活第五十九回宗忠神社「御神幸」 午前八時宗忠神社出発
 - ・大元 宗忠神社「鎮座の翌年から始まり、昭和二十七年より復活してから五十九回という歴史を重ねてきた「御神幸」は、明治の先祖先輩から受け継いでまいりました救世の念願である「天照らす神のみ徳を世の人に 残らず早く知らせたい」という御聖願達成への祈りとして今日、岡山の春を彩る「岡山さくらカーニバル」の中心をなす神事として斎行されています。「御神幸」は、教主宗忠様の御遺徳を顕彰し、御道の隆昌を念じて「奉仕する尊い行事であり、世界の大和と万民の和楽を祈る大神事」であります。
 - 三月十一日(日)午前十時三十分 春季祖霊祭
 - 四月三日(土)午後五時 春季大祭
 - 四月四日(日)復活第五十九回宗忠神社「御神幸」 午前八時宗忠神社出発
 - ・大元 宗忠神社「鎮座の翌年から始まり、昭和二十七年より復活してから五十九回という歴史を重ねてきた「御神幸」は、明治の先祖先輩から受け継いでまいりました救世の念願である「天照らす神のみ徳を世の人に 残らず早く知らせたい」という御聖願達成への祈りとして今日、岡山の春を彩る「岡山さくらカーニバル」の中心をなす神事として斎行されています。「御神幸」は、教主宗忠様の御遺徳を顕彰し、御道の隆昌を念じて「奉仕する尊い行事であり、世界の大和と万民の和楽を祈る大神事」であります。
 - 五月五日(水)午前十時三十分 第十九回 こども健康まつり
 - ・約一五〇匹の鯉のぼりの下で、楽しいイベントが行われます。「家族で」参加下さい。
 - 五月九日(日)午前十時 婦人会総会
 - 五月十二日(土)第十二回まるごとボランティアの日
 - ・社会福祉施設を中心に全国の教会所が一斉にボランティアを行います。所属の教会所を通じて「参加下さい」。
 - 五月十四日(日)午後五時 春季大祭
 - 五月十五日(月)午前十時 元旦祭
 - ・新年の松飾り、書き初めや古いお札をお祓いしておはやし(焼納)する神事です。一年間の無病息災を祈って、おはやしの炉の火でつくたてのお餅を焼いて、おせんざいと一緒いただきます。
 - 二月三日(水)午後三時三十分 節分祭
 - ・教主宗忠様が詠まれた「鬼追わず福を求めず我はただ 追われし鬼を福に導く」とのみ教えのままに、婦人会の皆様による手作りの「福豆餅」約五万個が特設ステージより「鬼は内、福は外。福は内、鬼は内」のかけ声で参拝者にまかれま
 - 六月三十日(水)午後二時三十分 大祓大祭
 - ・三大祭の一つです。半年の罪けがれを祓う神事です。
 - *大元・宗忠神社の主な行事*
 - 一月一日(金)午前零時 元旦祭
 - 一月十一日(月)午前十時 どんど祭
 - *神楽岡・宗忠神社の主な行事*
 - 四月二十五日(日)午後一時 春季例大祭
 - *神道山ついでたち御日拝のご案内*
 - ・お日の出の郷、神道山では、毎朝、お日の出の時刻二〇分前より、日拝所で「御日拝」を執り行っています。
 - ・御日拝：毎朝のお日の出を迎える神事です。どなたでもご参拝いただけます。ぜひ一度お参り下さい。
 - ・毎月一日の「ついでたち御日拝」には、多くの方がお参りになります。
 - 「ついでたち御日拝」の開始時刻は左記の通りです。
 - 一月一日：午前六時五十五分
 - 二月一日：六時四十五分
 - 三月一日：六時三十五分
 - 四月一日：五時三十五分
 - 五月一日：四時五十五分
 - 六月一日：四時三十五分

第二回HOPEミーティングでの吉備楽演奏

副教主 黒住宗道 日本学術振興会主催 九月二十八日

グローバル化が進み、あらゆる分野で学問の細分化(専門化・特殊化)が加速している今日、「このような時代こそ、科学者に

は、研究活動に際しての幅広い視野とひとりの人間としての感性の涵養が求められている」として、去る九月二十八日から三日間にわたり、「第二回HOPEミーティング」という科学者の研修会が神奈川県箱根町で開かれました。

将来のアジア太平洋地域の科学技術を担う優秀な若手研究者が「人間力」を養い、新しい時代を切り拓くリーダーとして育つようにと期待(HOPE)された、日本をはじめ、中国、韓国、オーストラリアなど十四の国・地域から選ばれた大学院生百余名が、国内外のノーベル受賞者から合宿形式で直接指導を受けるという、日本学術振興会主催による公の行事でした。

実は、研修の一環として「日本の伝統文化の鑑賞」があり、歓迎レセプションで吉備楽の演奏を主催者から依頼されました

は、研究活動に際しての幅広い視野とひとりの人間としての感性の涵養が求められている」として、去る九月二十八日から三日間にわたり、「第二回HOPEミーティング」という科学者の研修会が神奈川県箱根町で開かれました。

将来のアジア太平洋地域の科学技術を担う優秀な若手研究者が「人間力」を養い、新しい時代を切り拓くリーダーとして育つようにと期待(HOPE)された、日本をはじめ、中国、韓国、オーストラリアなど十四の国・地域から選ばれた大学院生百余名が、国内外のノーベル受賞者から合宿形式で直接指導を受けるという、日本学術振興会主催による公の行事でした。

実は、研修の一環として「日本の伝統文化の鑑賞」があり、歓迎レセプションで吉備楽の演奏を主催者から依頼されました



演奏を終えて

神道山養心塾「道づれ」のご案内

- お日の出の郷・神道山・心洗われ英気が養われる御日拝
- 開運への入口・養心塾―黒住教は開運の宗教です。より幸せな人生を！
- 対象者 黒住教信仰の日の浅い方。お道づれ信仰者に限らず広く一般の方々も参加できます。
- 期間 春のコース秋のコースもあります
- お申し込み 四月十六日(金)・十七日(土)・十八日(日)
- お申し込み 五月十四日(金)・十五日(土)・十六日(日)
- お申し込み 六月十八日(金)・十九日(土)・二十日(日)
- 詳細・お問い合わせ 黒住教本部「養心塾」事務局 〒701-1122 岡山市北区尾上神道山 電話 086-284-1122

- *主要連絡先***
 - 大元・宗忠神社** 〒700-0972 岡山市北区上中野1丁目3-10 TEL086-241-0148 FAX086-241-7860
 - 神楽岡・宗忠神社** 〒606-8314 京都市左京区吉田下大路町63 TEL075-771-2700 FAX075-771-2465
 - 東京支庁・東京大教会所** 〒154-0001 世田谷区池尻2-21-18 TEL03-3795-4142 FAX03-3795-4209 URL…http://www.kurozumikyo-tk.com
 - 北海道地区 札幌教会所** 〒061-2282 札幌市南区藤野二条10-5-1 TEL011-876-8851 FAX011-876-8852
- 【中部地区】名古屋教会所** 〒460-0001 名古屋市中区三の丸1-10-33 TEL&FAX052-231-4285
- 【関西地区】大阪大教会所** 〒543-0062 大阪市天王寺区逢坂1-3-14 TEL 06-6771-8191 FAX 06-6771-8199 URL…http://www.kurozumikyo-osaka.com
- 【四国地区】今治大教会所** 〒794-0026 今治市別宮町3-2-1 TEL 0898-22-2295 FAX 0898-22-2299
- 【九州地区】福岡教会所** 〒811-1344 福岡市南区三宅2-10-14 TEL&FAX 092-511-9623

黒住教機関誌「日新」
1冊150円/年間12冊1800円
お申込は教会所まで。

●まるごとダイヤル●
教主様・副教主様の講話・教団の活動情報が聞けます。
086-284-1111

祈り

教主黒住宗晴

十一月十二日、政府主催による天皇陛下御即位満二十年記念式典が東京の国立劇場において、天皇皇后両陛下ご臨席のもとに挙行されました。教主様には、鳩山由紀夫首相から正式のご案内状が届きました。

また翌日の十三日には、天皇皇后両陛下がお招きの「宮中茶会」のご案内をいただき、教主様はその栄に浴して出席されました。

なお、十一月十二日東京で執り行われました、天皇陛下御即位二十年奉祝国民祭典に際し、奉祝委員会から、教主様に「奉祝文」の依頼がありました。本号はその御文を掲載します。

祈りの天皇陛下、皇后陛下

皇后陛下が皇太子妃であられたとき、「皇室は祈りでありたい」と仰せになって、その祈りの最たるものとして元寇の役における亀山天皇の御祈りと、混迷を深めた江戸時代末期の孝明天皇の御祈りを挙げられたそうです。このことを、かつてある先輩から教えられて、私は心底感動いたしました。

天皇皇后両陛下の祈りの日々、この御祈りを象徴するような御姿を、先年訪ねられたサイパン島のいわゆるバンザイ岬に、私たち国民は拝み奉りました。そこには、私も世にいう

宗教者の祈りをはるかに超えた清しくも気高いものが満ちていました。テレビに映し出される、頭を深く垂れて祈り続けられる両陛下に手を合わせながら、多くの国民が共に英霊のご平安を祈り、同時に、天皇陛下、皇后陛下を戴く日本国民の一人としてある自身の幸せをかみしめたことでした。

その昔、明治天皇は、ご幼少の江戸末期、御父君孝明天皇の御身を魚がすような日々の御祈り、就中、蛤御門の変のときの御祈りも共にされていただけに、それがあります。それだけに、

多くの御製に込められた敬神崇祖の御心は格別のもを感じます。

とりわけ、終戦直後の昭和二十年九月二十七日、先帝昭和天皇が連合国最高司令長官D・マッカーサー元帥に御会見のときの御言動は、まさに祈りの権化といえましょう。マッカーサーをして「我、神を見たり」と言わしめたのも、すべて祈りから生まれる大御心のなせるものと拝察します。このときに始めると申しても過言でないと思いますが、昭和天皇の全国御巡幸、その中で唯ひとつ叶えられな



▶十一月十三日お茶会の後、皇居前にて

人の喜びを我が喜びとする

ここ数年、黒住教本部神道山へお問い合わせの多かった悩み事、相談事の中より、大教殿司教がご質問にお答えいたします。

【質問】私の知り合いに人のめんどろ見がよい、心やさしい方がいます。しかし、その方はあまり運がよくないといいますが、幸せそうではありません。

あのようにいい人がどうしてと思います。(S・I)

【お答え】良いところに気付かれましたね。教主様は「善人の罪を作るな」と御教え下さっています。善人と呼ばれる人の多くは心やさしい人たちで、やさしいがゆえに心を痛めがちです。

私たち人間は、生命の親神である天照大御神様から「心(みわけみたま)」をいただいた神の子です。ですから、自分自身の心を痛めると、大御神様の「心」まで痛めてしまうことになり

ます。教主様は、「人情厚くして、人情に迷うな」とも御教えですが、かわいそうな人を見たり、辛い場面に遭遇したりしますと、善良な方は「かわいそうに！」と同

情します。人としての在るべき姿として、憐憫の情をもよおすことは尊いことですが、そのかわいそうな状態をともしれば自分自身に重ねてしまい、陰にもつておかげを取り逃がしてしまいがちです。ですから、「かわいそうに」と思うやさしい心にとどめず一歩進めて、その方にぜひとおかけを受けてほしいと祈ることが、真に道に合った生き方といえます。

教主様の歩まれた道を見習い、同じようにつとめていくことが、本教の教理です。教主様は、人の喜びをわが喜びとして人生を歩まれました。病み悩み苦しむ人に出会うと、「おお、かわいそうに」と手を差し伸べられ

ました。そして、その方がおかげをいただくようにと強く祈られたのです。私たちは、「かわいそうに」と思っても、その段階にとどまってしまうと、その方のために祈ることを怠る場合が多

いのではないのでしょうか。人の悲しみをわが悲しみとする事は大切ですが、そこに沈殿してしまふことが問題でありまして、そのために「開運の道」からも外れてしまうのです。

最近の科学では、脳の研究が進んでいて、同情するあまりその悲しみにひたつていると、脳は悲しむべき主体が分からなくなり、自分自身が悲しい状態になるといいます。同情だけにとどめず、その方がおかげをいただくようにと祈りに変えますと、その悲しみを自分の心に刻まずに済みます。人の幸せを祈ると共に、人の喜びを我が喜びとする生き方をする人に運の悪い人はおりません。

人生で出合う色々な出来事の中で、親心を大きくする様にとめると、家族はもちろんまわりの人達も開運の道が開かれ

ます。(大教殿司教 藤原德行)

《新刊紹介》

「続太陽の神人黒住宗忠」
—神のご開運を祈る—
山田雅晴氏が上梓



続編は「宗忠はなぜ不世出の神人と呼ばれるのか」「宗忠はいかに危機を脱して、神人へ到ったか」「人生の達人・宗忠が示す『道の理』で、明るい人生を味わう」「神人・宗忠が吉備国に出現した歴史的・霊的風景」「心の岩戸」を開き、神人和楽を目指そう」の五章で構成されています。また、同著の写真の一部は本教から提供させていただきました。

神道研究家の山田雅晴氏は、平成八年(一九九六)に、激動の時代を生き抜いていくために教祖神の御教えを一人でも多くの人に知ってもらいたいと、「太陽の神人 黒住宗忠」(たま出版)を著されましたが、本教お道づれはもとより広く一般の方々にも読まれ、同著が切っ掛けとなつて本教に入信した方も次々とありました。

読者からは「続編を出してほしい」という声が出され、宗忠の御教えを研究し、研究を重手し、より深く研究に研究を重ねられていきましたが、この度「続太陽の神人 黒住宗忠」(たま出版)が「続太陽の神人 黒住宗忠」(たま出版)が

六十二回の式年遷宮が斎行されますお伊勢様です。

天皇陛下、一聖二代の大嘗祭という祈りの極致を、伊勢の皇大神宮に捧げられるときに始まる。天照坐皇大神神と御同徳御同座の祈りの御日々こそ、この二十年間貫かれてきたまさに無窮の大御心と確信します。

改めて、

天皇陛下、皇后陛下の御聖寿の萬歳と皇室の御弥栄を心よりお祈り申し上げます。

氏は「宗忠の『神のご開運を祈る』ことは神と人間の相互信頼になります。：毎日『神・仏先祖』のご開運を祈ることで、『守護』のご存在は必ず守ってください」という信頼が深まりました。

「おわりに」の項に記されています。客観的に分かりやすく、教主神とその御教えが、混迷する二十一世紀に生きる人々の人生の指針となると確信して紹介されています。

「一読をお勧めします。購読をご希望の方は、日新社へお申し込み下さい。

●頒価一、三〇〇円(送料一六〇円)
〒701-1212
岡山市北区尾上神道山 黒住教日新社
☎(086)284-1212
☎(086)284-1211
☎(086)284-1210